

哲学歴史学科



世界史コース

● 世界史コースとは

歴史学は、人類の登場から現在に至るまでの人間の営みと経験を、時間軸を意識しながら解明し、解釈することを目指す学問分野です。世界史コースには、フランスやドイツ、トルコ、中国など様々な地域を専門とする7名の教員がおり、色々な地域について詳しく学ぶことができるのが魅力です。今とは違う時代、日本とは違う地域に触れることは、対象とする異文化への理解を深めるだけでなく、我々が当たり前と思うことを見直し、現代の諸問題をより深く理解することにつながります。異文化に関心がある人はもちろん、日本を含め現在の世界に違和感や疑問を持ち、これでいいのか、なぜこうなのか、もっと違った形はないのかと広い視野で考えてみたい人にもおすすすめです。

● 先生の研究



准教授 うえの まさゆき
上野 雅由樹 先生

近世・近代のオスマン帝国を研究対象としています。オスマン帝国は、文化的背景の面で多様な人々を内包していたことを特徴のひとつとしており、その統治下の人々はムスリムや正教徒、アルメニア教会の信徒、ユダヤ教徒といったように、宗教宗派で分類されています。それら宗派集団間の関係がどのようなものだったのか、ある集団の人々は他の集団の人々をどのように見ていたのかということ、都市社会史の観点から明らかにしたいというのが最近の主な研究関心です。こうした課題に取り組むために、帝都イスタンブールの事例に注目し、酒場をめぐる規制や墓地の処遇、19世紀の都市改革や新しい行政制度の形成といったテーマについて検討しています。

● 学生にインタビュー

○コースに入ったきっかけ
昔からケルン大聖堂などのヨーロッパの建築物や、「最後の晩餐」などの絵画を見るのがすごく好きでした。高校の世界史の授業でこういった建築物や絵画の歴史を学んでいくうちに世界史が好きになり、大学でももっと奥深く学びたい!と思うようになりました。自分の興味や好きなことを学べる場所を探したら世界史コースを見つけたという感じですね!

○自身の興味
今、僕は、中世から近世のヨーロッパ王族の生活に興味があります。特に結婚について学びたいと考えています。当時の国王は多くの妃を抱えていましたが、今で言う浮気や不倫は存在したのかという疑問から、興味に繋がりました。そこから派生して今は当時のヨーロッパの結婚観についても学びたいと思っています。

○コースの雰囲気・特徴
コースに所属しているひとりひとりが全く違った様々な学びをしていることが特徴です。それを叶えてくれているのは、自分の専門外のことも、学生の学びたいことに詳しい他大学の先生や専門の方を紹介してくださる世界史コースの先生方の手助けです。自分の興味と、とことん付き合える大学生活が送れますよ!

● 卒論タイトル例

- ・共和政末期から帝政初期における剣闘士闘技の成立理由と身分秩序との関係
- ・ドイツ帝国における多民族的ネイションの構想—ハンス・デルブリュック『ポーランド人問題』の分析—
- ・20世紀におけるフランスの移民史—マルセイユ・エスペランスからみる多文化共生の試み—

● 世界史コース オススメ入門書

『姦通裁判—18世紀トランシルヴァニアの村の世界—』
【著者】秋山晋吾

【紹介】

この本は、現在で言えばルーマニアの北西部にあたる、トランシルヴァニア地方のある村で18世紀に生じた姦通事件を題材とし、それに関する証人尋問記録を主な手がかりとして、ヨーロッパの一隅にあった村の人々の生活世界と社会関係を描いています。歴史学の面白さはなによりも、我々の常識が通用しない、今とは違う時代に書かれた記録、史料を読み、そこからその時代の様子に触れることにあると思います。『姦通裁判』は、実際に歴史研究者がどのようにして史料を読み、そこから情報を読み取っていくのか、さらに言えば、書かれていないこと、あえて語られなかったことに思いを馳せるのかというプロセスを見せつつ歴史像を描いてくれています。題材のおもしろさという結果もさることながら、それに至る過程を追体験する機会を提供することで歴史研究とはどのように行うものなのかを教えてください。教科書的な書物です。

● 教員紹介

平田 茂樹 教授 Shigeki Hirata
中国の近世社会の政治史、社会史、文化史
『宋代政治構造研究』(汲古書院、2012)

渡辺 健哉 准教授 Kenya Watanabe
中国近世・近代史。北京の歴史、元明時代の科挙をめぐる問題、近代における日本と中国との学術交流の歴史を研究。
『元大都市形成史の研究—首都北京の原型』(東北大学出版会、2017)

北村 昌史 教授 Masafumi Kitamura
近現代ヨーロッパ、特にドイツの社会史
『ドイツの統一と第二帝国』(小山哲・上垣豊・山田史郎・杉本淑彦編著)『大学で学ぶ西洋史〔近現代〕』(ミネルヴァ書房、2011)

向井 伸哉 講師 Shinya Mukai
西洋中世史、フランス史、村落史、国制史
『中世後期南フランスにおける都市と農村の政治的関係: ペジエの都市エリートとヴァンドレスの村落共同体 (一三五〇—一四〇〇)』、『史学雑誌』127巻10号、2018年、1-30頁。

上野 雅由樹 准教授 Masayuki Ueno
西アジア近世・近代史、オスマン帝国史
共著『世界史/いま、ここから』(山川出版社、2017)

草生 久嗣 教授 Hisatsugu Kusabu
ビザンツ史、ヨーロッパ中世史、宗教問題史、異端学
共著『北西ユーラシアの歴史空間 前近代ロシアと周辺世界』(北海道大学出版会、2016)